

令和4年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	1901	領域略称名	顔・身体学
研究領域名	トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築—多文化をつなぐ顔と身体表現		
領域代表者名 (所属等)	山口 真美 (中央大学・文学部・教授)		

(評価結果)

A+ (研究領域の設定目的に照らして、期待以上の成果があった)

(評価結果の所見)

本研究領域は、「カルチャー」という現象を境界確定と越境、分離と融合、アイデンティティの固定化と再構築という矛盾のせめぎあいととらえ、異文化の出会い「トランスカルチャー」状況を分析する学術体系を心理学、哲学、人類学の融合研究によって構築した意欲的な取組である。各計画研究が明確で優れた成果を上げているだけでなく、『顔身体学ハンドブック』の作成などを通して実際に多面的・統合的なアプローチが成し遂げられ、新学術領域研究のモデルケースと評価できる。コロナ禍という不測の事態をも新たな研究テーマとして組み込み、多種多様で幅広いアウトリーチ活動を実施したこと、多くの若手が参画し、新しい顔・身体学を構築するための裾野を広げようとしたことも高く評価する。

研究領域全体として高い国際的優位性を有し、英文学術誌 *Philosophy and Cultural Embodiment* の発行など国際的発信も積極的に推進されている。今後、当該学術誌の投稿を増やす工夫、国際的アカデミアにおける地位を更に高めるための手立てを継続して検討することが期待される。